

夢の電車は東へ西へ

— 近畿車輛の海外案件への取組み —

幡井 秀規

車両事業本部 海外事業室

近畿車輛は、1920年の創業以来、20数か国に鉄道車両を輸出してきた。国内市場への対応だけでは受注の山谷を吸収できないとの経営判断から、海外案件への積極的な取組みを展開している。現在、取組んでいるおもな市場を紹介すると共に、将来に向けた展開、展望、目指すところを述べる。

● 主要な海外案件への取組み

① 中近東市場

当社は、約1,400両の輸出実績を持つエジプト市場や、現在製作を進めているアラブ首長国連邦ドバイ案件を中心とした中近東市場の維持・拡大を目指している。

エジプト市場においては、現地車両メーカーであるSEMAF社に対する技術協力を通じて、車両製作の国産化にも寄与してきた。今後、この関係を継続させることにより、事業展開をはかっていきたい。また、カイロ地下鉄案件については、車両の製作納入という従来車両メーカーとしての事業範囲を超えた保守業務にも参入し、基幹事業をベースとした、いわゆる周辺サービスの提供を積極的に行うことにより、最終顧客からの信頼を得ながら新規案件の確注をめざしている。また、ドバイを中心として、今後フルターンキーによるインフラ整備としてのビジネスチャンスがますます増大することを期待して、営業活動を強力に進めていきたい。

② 北米市場

北米市場への積極的な事業展開をめざし、1991年にアメリカ現地法人であるKINKISHARYO (USA) INC.

(KUI)を設立し、さらに1999年にはKUIを持株会社にして、KINKISHARYO International L.L.C.(KILLC)を設立した。KILLC設立以来、2010年度には総売上額が10億ドルを突破する予定である。さらに2006年1月には、20年以上技術コンサルタントとして協力関係にあったRail Transit Consultants, Inc.(RTC)を近畿車輛グループの傘下とし、北米市場のみならず、全世界でのエンジニアリングサービスを行うための基盤を確立した。



シアトル市街を快走するLRV

北米市場においては、Light Rail Vehicle(軽快電車、以下LRVと表す)に特化した事業を展開してきたが、従来の高床式単連接LRVから、70%低床式LRVへの進化を足がかりにして、アメリカにおけるLRVのシェアを拡大すべく、これまで培ってきた技術ノウハウや実績をテコに受注活動に注力していきたい。また、アメリカ市場のみならず、カナダ市場への参入もめざしている。さらに、研究開発を進め、次世代LRVの提案を行っていきたい。

特筆すべきは、ニュージャージー交通局殿(New Jersey Transit Corporation-NJT)およびフェニックス交通局殿(Valley Metro Rail-VMR)に納入した車両の保守業

務を請負っていることである。NJTハドソンバーゲンLRTプロジェクトは、DBOMとよばれる案件で、Design(設計)、Build(土木・建設・車両製作)に加え、20年間のOperate(運行)、Maintain(保守)が一体となった契約で、アメリカ型PPP(Public and Private Partnership)案件といえる。アメリカのゼネコンとタイアップし、応札時から特殊法人を設立し、KILLCは、車両の製作および保守を担当している。

また、2007年3月には、マニラ1号線用LRV24両を完納し、営業運転に投入されている。東南アジア市場においては、中国・韓国の車両メーカーが強力な営業活動を展開しており、し烈な価格競争になることは確実である。当社としては、価格競争力を持った車両の提案を行うとともに、一部の現地生産を視野に入れた事業展開をはかるつもりである。

●今後の展開

当社は、顧客満足を第一と考え、世界各国のユーザから信頼を得てきたと自負している。ユーザのニーズはわれわれのニーズとして捉え、鉄道事業者、部品メーカーと三位一体となって問題の解決に努力を重ねてきた。われわれは、単に発注者・部品メーカーとの契約当事者としての関係だけではなく、真のビジネスパートナーとして、相互の利益のために何ができるか、また、相手が抱えている課題を共通の課題として一緒になって解決するという姿勢が大事であると考えている。

「一定品質の安全な製品を納期内に納入する」…ごく常識的な言葉であるが、このことを世界にコミットし続けることにより、顧客満足度を得られ、それ以上に顧客から頼りにされる存在になると信じている。

北米市場においては、LRVに特化した営業活動を行っているが、過去の実績に甘えることなく進化し続け、より高い顧客満足度を得られる新製品の研究開発に努力を怠らないことが、市場の維持・向上に結びつくと考えている。



香港 KCRC 西線を走る通勤車両

この実績が評価され、VMR向けLRVの保守業務を受注することができた。

今後もDBOM案件や納入車両の保守ビジネスの受注をめざしていきたい。

③東南アジア市場

当社にとって東南アジア最大の顧客である香港Kowloon-Canton Railway Corporation(KCRC)殿向けには東線・西線・マオシャン線用として合計252両の電車を納入しており、現在東線・西線を結ぶ南リンク線用として34両を製作している。